

■共通テストから個別試験までの過ごし方について

3年生の皆さんはいよいよ個別試験に向けての準備が始まりました。今回はチーム OG の先輩から、共通テスト後の学習への取り組みについてメッセージを寄せてもらいました。1・2年生の皆さんは未来へのイメージづくりに活用してほしい。

一橋大学商学部1年 Yさん

3年生の皆さん、共通テストお疲れさまでした。今は個別試験に向けて準備を進めているところだと思いますが、この1か月間、どのように学習を進めていったらよいかということ、私なりにお伝えできたらと思います。

個別試験対策で大切なことは過去問で傾向を掴むことだと思います。国公立大にしても私大にしても、出題されやすい分野や形式が異なるので、受験校の過去問には触れておく方が良いと思います。私の場合、一橋大は10~15年分、その他の私大は2~3年分程度取り組みました。滑り止めの私大は、本命でないがゆえに過去問を見ずに受験してしまいがちですが、なんとなく問題の雰囲気を知っている方が試験会場でも落ち着くし、第一志望校を受験する前に合格をもらえていると、自分は大学生になれる！と精神的に楽になり勉強がはかどると思うので、過去問には目を通すなり実際に解くなりして合格を取りに行く方が良いと思います。

また、添削指導は積極的に受けることをお勧めします。先生方は忙しい中でも時間を作って丁寧に添削、面談などしてくれます。過去問の解説だけでは得られない情報を提供してくれたり、自分では気づけない癖や弱点を指摘してくれたり、親身に指導してくれるので、論述対策をする人はぜひ受けてみてください。そして、ただ添削してもらって終わりではなく、そこで学んだことを定着させるための復習も大切です。私もそうでしたが、人は自分の弱点に向き合うことが苦手で、間違った問題を放置してしまう傾向にあるそうです。でも、もし同じような問題が本番目の前に現れたとき、やったことあるのにできない...というのが一番苦しいと思います。勉強とは“できない”を“できる”に変えること。私も大学で1年間学んでこの考え方はとても大切だと実感しています。できる問題を1つでも増やすという意識で復習を大切にしてほしいと思います。



最後にモチベーションの保ち方について。周りに進路先が決まった人がいたり、併願私大の合否が分かったり等、勉強を続ける意志を揺るがすことが多くなると思いますが、その時大事にしてほしいことは、後悔しないための最善を尽くすということです。先生方から言われているかもしれませんが、試験が近づくとつれライバルは減っていきます。それは諦めてしまう受験生が一定数いるから。なら自分は1か月全力で勉強して後悔しない努力を重ねて合格してやろう！という意志で勉強できたら、全国を受験生よりも1歩リードできるし合格にも近づくのではないのでしょうか。私も1年前の今頃、春に後悔したくないという一心で勉強していたことをよく覚えています。残り1か月やれることをやりつくして、3月に最後までやり切ったという達成感を味わってほしいと思います。

1か月は本当にあっという間で受験もあっという間に終わってしまうと思います。だからこそ、残りの期間は今までの努力にさらなる努力を重ね、それを自信に変えて最後まで走り切ってほしいです。皆さんに桜咲きますように。

個別試験に向けてのアドバイス

東京農工大学農学部1年 Sさん

3年生のみなさん、こんにちは。共通テストが終了し、いよいよ個別試験への準備が始まったということで、個別試験の準備期間の過ごし方について、書かせていただきたいと思います！

〈学習について〉

2次試験までの期間は、とにかく記述問題を解いて共テほけから復活することと、過去問を添削していただくこと、そしてこれまでやってきた問題集の総復習を行うことを意識していました。過去問は、時間を測って解き、時間配分や解く順番をシミュレーションしたり、解ける問題を見極める練習をしたりして、本番で実力が出し切れるように練

習を重ねました。解き終わったら必ず答え合わせをし、抜けている単語や知識（とくに生物）があればその場ですぐ覚えるようにし、教科書などを用いて周辺知識まで確認しました。京大の英語や古文では、以前出題された単語や知識が後々の入試問題に登場することがよくあると感じたので、過去問で出会った文章は必ず復習して細部まで自分のものにしていくようにしました。苦手だった数学は、過去問演習の時から、確実に解けそうな問題から手をつけていくようにし、苦手なりに点を取れるように意識して演習しました。復習の時も、無理だと思った問題の復習はある程度のところまで切り上げて、理解できそうな問題に重点を置いて復習しました。化学は、よく理論化学の難しい問題に時間をとられ後半の簡単な問題を落とすことがあったので、過去問演習で時間配分の練習をしました。また、有機の構造決定はかなり得点源になりやすいと感じたので、過去問に加えて「世界一わかりやすい京大化学」の有機の部分を何度も解いて、構造決定に徹底的に慣れるようにしました。これが効いて、本番でも有機はしっかり得点することができたと思っています（たぶんですが）。



また、記述問題は先生に添削していただいていたので、添削が返ってきたら、答案のクセや悪かった点を逐一確認して、次に生かす、ということを繰り返しました。始めはうまく書けなくても、練習と復習を積み重ねていくことで形式にも慣れ次第に早く正確な答案がかけられるようになってくるので、粘り強く取り組んでほしいです。そして、復習が全て終わったら、自分の点の取り方を分析して、次はこういう問題が出たら確実にとるようにしよう、というように、得点をあげる戦略も考えるようにしていました。過去問演習はすごく大事ですが、特に理系教科は過去問だけではなく、今まで解いてきた問題集（数学ならオリジスタンやスタンダード、理科は重問）を繰り返して、確実に仕上げることも大切にしていました。また生物は暇さえあれば教科書を穴が開くほど読み、論述や知識の確認につなげていました。ちなみに英語は解く問題がなくなったので、過去問をやらないorできない日はスタサプの京大対策講座の問題を解いて長文演習の代わりにして、新しい長文を解く感覚を保つようにしていました。特編授業は集中して聞き、そこで出てきたことはその場で身につける勢いで授業を受けました。

〈併願校対策について〉

併願校対策と国立二次対策のバランスについて説明します。私は私立対策に時間をかけたくなかったので、過去問は事前に一年分解いたのと、前日にもう一年分解くのにとどめました。解いてみてあまりにも慣れないようならもう少しやった方が良くもかもしれませんが、ある程度手応えを感じられたのであればそこまで併願対策に時間を掛けすぎるのはおすすめしないうです。あくまでも国立二次の勉強を圧迫しない範囲に納めていけると良いと思います。

〈モチベーションの保ち方、メンタルの保ち方〉

メンタルの保ち方については、何度か進路通信に書いているので、「またか」と思われるかもしれませんが（笑）、直前期もとにかく笑うことと自信がなくてもポジティブでいるようにしました。私は共テ後に志望校を変えてから対策を始めたため、間に合うか本当に不安でしたが、「こんなに多くの人に支えてもらってるんだし、ここまで頑張ってきたんだから最後までやりきるしかない！」と思って前向きに取り組みました。また、授業がない日も学校に来て友達と会って勉強することで、不安なのは自分だけじゃないと思い、心の支えにしていました。

最後にモチベーションについて。共テの結果を受けて第一志望に挑戦できる人もいれば、悔しい思いをもちながら志望校を変えて出願することになる人もいると思います。志望校を変えた人に伝えたいのは、変えた志望校に対して、強い思いを持って本気で向かってほしいということです。私も実際、共通テスト後に志望校を変えることにしたときは、本当にこれでいいのか、という思いや、これから間に合うのか不安な気持ちもありました。それでも、新しく志望校にした大学のことをたくさん調べて、自分で魅力を見つけて、絶対にここで勉強したい！と決めて限界を決めずに最後までやりきりました。「間に合うかな？」と考えている時間があるなら、間に合うように頑張れば良いんだと考えて全力で走ったからこそ、結果に納得できたし、今の自分がいるんだと思います。志望校を変えたからと言って妥協したり気持ちが引けた状態で勉強に取り組んだりするのではなく、「志望校変えたからこそやってみよう！」という気持ちで進んでほしいです。その経験は必ず、結果云々以上に、これからのみなさんの糧になっていくと思います。

個別試験が近づいてきて、不安になったり、今までの努力を疑いたくなったりすることもあるかもしれませんが、これまでやってきた努力に無駄なものはありません。頑張ってきた自分を信じて、そして本番の自分の力を信じて、最後まで走り抜けていってください。みなさんの努力が実を結ぶよう、応援しています。